

病理診断科

1 部門目標

- 1) 正確でわかりやすい病理診断報告書を可及的速やかに作成する。
- 2) 必要に応じて臨床医との協議を心掛ける。
- 3) 学会や検討会に積極的に参加し、知識の更新、研鑽に努める。

2 業務体制・スタッフ

1) 病理診断科・医師

- ・常勤医師 細川 洋平(統括部長、千葉大学客員教授・臨床教授、病理専門医、細胞診専門医、病理専門医研修指導医、臨床検査専門医、禁煙専門医、厚生労働省医療安全管理者養成研修修了)
- ・非常勤医師 池田 純一郎(千葉大学病院病理診断科教授、病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医、病理専門医研修指導医)
- ・非常勤医師 張ヶ谷 健一(千葉大学名誉教授・徳洲会鎌ヶ谷病院病理診断科部長、病理専門医、病理専門医研修指導医)
- ・非常勤医師 飛梅 実(日本医療研究開発機構(AMED)、国立感染症研究所感染病理部・国保旭中央病院臨床病理科、口腔病理専門医)

2) 臨床検査科病理検査部門・臨床検査技師

- ・主任臨床検査技師 佐々木 瞳(細胞検査士、国際細胞検査士、時短勤務)
- ・主任臨床検査技師 梶原 すみれ(時短勤務)
- ・主任臨床検査技師 小澤 貴裕(細胞検査士)
- ・臨床検査技師 椎谷 直樹(細胞検査士)
- ・臨床検査技師 工藤 輝希(細胞検査士)
- ・主任臨床検査技師 柿沼 豊(細胞検査士)

3 業務内容

- 1) 病理診断、細胞診断、剖検診断業務
- 2) 診断業務の精度管理
- 3) 細胞診カンファレンス、生検・手術検体に関する臨床・病理カンファレンスの適時開催
- 4) 病理診断科・病理検査室定例会議開催
- 5) CPC 開催

4 業務実績〈令和5年度年間統計〉(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

- 1) 病理組織診断件数 2940 件
- 2) 細胞診断件数 1879 件
- 3) 術中迅速診断件数 72 件
- 4) セルブロック件数 34 件
- 5) 免疫染色実施症例数 1137 件(免疫染色実施率:38.7%)
- 6) 免疫染色実施枚数 5737 枚
- 7) 他院組織件数 25 件
- 8) 他院細胞診件数 14 件
- 9) 細胞診カンファレンス
 - ・実施回数:103 回
 - ・検討症例数:475 件(25.2%)
- 10) 臨床・病理カンファレンス:約 50 回
- 11) 剖検前カンファレンス:2 回
- 12) 病理解剖数 3 件

- ・【A182(A23-1)】令和5年7月21日(金)、内科、63歳男性、主治医:柴田 修平医師
- ・【A183(A23-2)】令和5年7月26日(水)、救急科、71歳女性、主治医:立石 順久・織田 成人医師
- ・【A184(A23-3)】令和5年11月29日(水)、救急科、35歳女性、主治医:立石 順久医師

- 1 3) CPC 実施回数 2 回 (後掲)
- 1 4) 病理検査室・病理診断科定例会議 : 35 回
- 1 5) 日本病理学会コンサルテーションシステムによるセカンドオピニオン依頼件数 2 件

5 CPC

【第 1 回 CPC (文科省・基礎研究医養成活性化プログラム 千葉大学・大学院医学研究院・腫瘍病理学講座 (旧第一病理)、千葉大学医学部附属病院病理診断科・千葉市立海浜病院共催)】

- 1) 開催日時 : 令和 6 年 2 月 16 日 (木) 18 : 00 ~ 19 : 00
- 2) 開催方法 : ライブ (院内大会議室) + WEB
- 3) 演題 : 【A182 臨床的に肝血管肉腫が疑われた 1 剖検例】
- 4) 座長 : 野本 裕正 (内科統括部長)
- 5) 発表初期研修医 : 五十嵐 祐毅、八田 裕美子、椎名 彩夏、青山 ひかり (1 年目臨床研修医)
- 6) 指導医 : 柴田 修平 (消化器内科)
- 7) 病理医 : 張ヶ谷 健一、細川 洋平、池原 譲 (病理診断科)
- 8) 参加者 : 41 名 (診療部 23 名、検査科 9 名、外来・地域連携 1 名 (WEB)、外部 8 名 (WEB))

【第 2 回 CPC (文科省・基礎研究医養成活性化プログラム 千葉大学・大学院医学研究院・腫瘍病理学講座 (旧第一病理)、千葉大学医学部附属病院病理診断科・千葉市立海浜病院共催)】

- 1) 開催日時 : 令和 6 年 3 月 8 日 (金) 18 : 00 ~ 19 : 00
- 2) 開催方法 : ライブ (院内大会議室) + WEB
- 3) 演題 : 【A183 臨床的に Creutzfeldt-Jakob disease が疑われた 1 剖検例】
- 4) 座長 : 立石 順久 (救急科・集中治療科)
- 5) 発表初期研修医 : 大西 夏未、田上 直也、左方 宏樹、秋山 梨聖 (1 年目臨床研修医)
- 6) 主治医・指導医 : 立石 順久 (救急科)
- 7) 担当医 : 中曽根 広拓 (内科)
- 8) 病理医 : 細川 洋平、張ヶ谷 健一、池田 純一郎、飛梅 実 (病理診断科)

9) ミニレクチャー :

- ・座長 : 池原 譲 (千葉大学医学研究院・腫瘍病理学講座教授)
- ・演題 : Creutzfeldt-Jakob disease について
- ・講師 : 飛梅 実 (日本医療研究開発機構 (AMED)、国立感染症研究所感染病理部・国保旭中央病院臨床病理科)

- 1 0) 参加者 : 33 名 (診療部 23 名、検査科 6 名、医事班 1 名、外来・地域連携 1 名、外部 2 名 (WEB))

6 細胞検査士試験受験結果

- ・令和 5 年 8 月中旬、千葉大学附属病院病理診断科、池田純一郎教授に当院臨床検査技師 3 名の細胞診研修受け入れを依頼。
- ・令和 5 年 9 月 7 日 (木)、第 1 回目の細胞診研修開始、以後、11 月末まで継続。
- ・令和 5 年 12 月 26 日 (火)、小澤 貴裕主任、椎谷 直樹臨床検査技師、工藤 輝希臨床検査技師 3 名の同時合格。

7 新病院病理解剖室設計準備

- ・令和 5 年 5 月 26 日 (金) 15 : 40 ~ 19 : 30 : 慶応大学医学部病理学教室・病理解剖室視察

8 研修医発表会

- 1) 原発不明癌へのアプローチ～診断・治療に苦慮した一例を後方視的に考える～ : 青山 ひかり、川名 秀俊、細川 洋平、令和 6 年 2 月 22 日 (木)、千葉市立海浜病院大会議室
- 2) インフルエンザウイルス感染により劇症型心筋炎を発症し救命し得た 1 例 : 椎名 彩夏、小林 隆広、細川 洋平、令和 6 年 2 月 22 日 (木)、千葉市立海浜病院大会議室
- 3) 各科連携により術前診断が可能であった胃 Glomus 腫瘍の 1 例 : 左方 宏樹、宮澤 康太郎、細川 洋平、令和 6 年 2 月 22 日 (木)、千葉市立海浜病院大会議室

9 院内 QC 活動発表会発表

- 1) 推定困難細胞診症例の穿刺吸引針洗浄液活用による悪性リンパ腫 2 例の解析から得られた新しい景色～もったいない精神が患者を救う、自らを救う～ : 工藤 輝希、椎谷 直樹、小澤 貴裕、佐々木 瞳、柿沼 豊、梶原 すみれ、静野 健一、溝口 亜由美、細川 洋平、張ヶ谷 健一、池田 純一郎。令和

6年3月6日(水)、千葉市立海浜病院大会議室

- 2) 細胞診精度管理と細胞検査士育成は車の両輪：柿沼 豊、工藤 輝希、椎谷 直樹、梶原 すみれ、小澤 貴裕、佐々木 瞳、静野 健一、熊川 忠、溝口 亜由美、細川 洋平、池田 純一郎、張ヶ谷 健一。
令和6年3月6日(水)、千葉市立海浜病院大会議室

1 0 日本病理精度保証機構 2023年度外部精度評価参加証及び認定証交付：2024年3月15日

- 1) 染色サーベイ(CD20)認定証
2) 染色サーベイ(CD30)認定証
3) フォトサーベイ(悪性リンパ腫)認定証

1 1 ロシュ社自動免疫染色装置導入と稼働開始：令和6年3月25日(月)

- ・コンパニオン診断の院内導入を目的として、令和5年度中に医療機器購入を要望した。

1 2 病理検査室業務環境整備事業

- 1) 病理診断室間仕切り枠撤去工事：令和5年7月1日(土)8:40~10:40、
2) マクロ臓器写真撮影環境整備事業

- ・病理解剖室整備事業の一環として令和4年度購入の杉浦研究所 SL 写真撮影装置 MPS-8・LD 一式を、病理検査室切出し室の手狭な状況、使用頻度、最大活用の観点から手術室横標本準備室で活用して頂いていた。

- ・令和5年12月5日(火)、病理検査室切出し室整備後、同上撮影装置を移動し、稼働開始した。

- ・令和6年1月10日(水)、マクロ臓器撮影に接写用レンズの活用開始

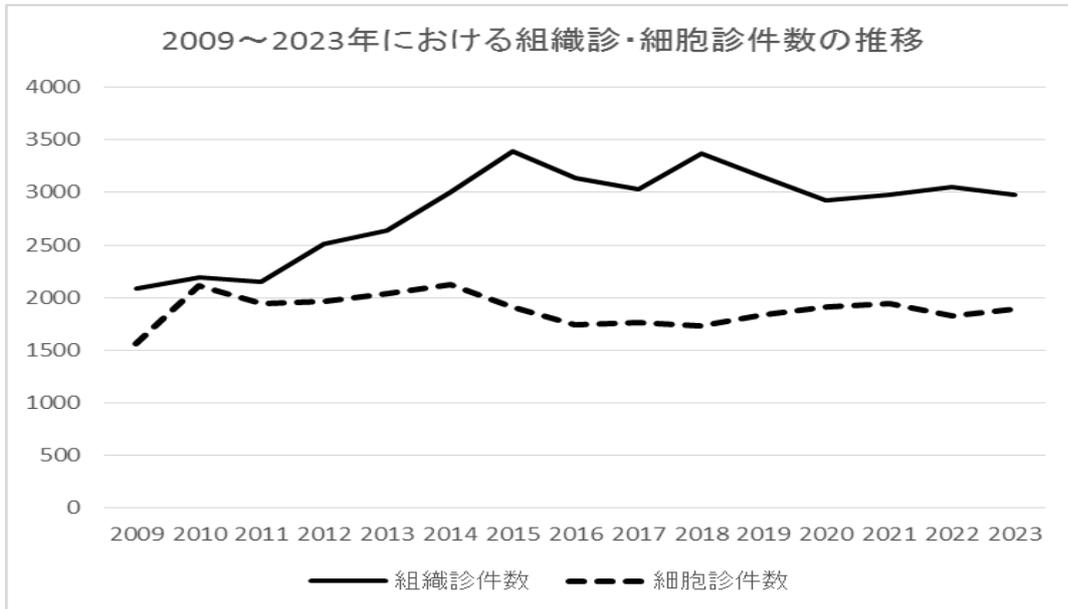
3) ライカ社製バーチャルスライド作成装置一式廃棄決定：令和6年1月

- ・令和元年(2018年)には故障し、机1台分を占拠していた。
- ・遠隔病理診断実施症例の画像データを抽出、保管した。

1 3 臓器ホルマリン固定適正化のための院内環境整備事業

- ・手術室横標本準備室に小型冷蔵庫購入要望：令和6年3月22日(金)
- ・令和6年4月2日(火)設置、稼働開始

1 4 2009~2023年における病理組織診断件数・細胞診検査件数の推移



1 5 部署の特色と評価

病理診断科における究極のミッションは正確な診断を迅速に主治医にお届けすることですが、特に常勤病理医のミッションは迅速病理診断依頼に対応し、病理解剖依頼があれば主治医、ご遺族の皆様方のご希望に添うように調整して実施することにあります。

術中迅速病理診断は72件実施しました。乳腺外科症例のセンチネルリンパ節については氷晶化防止の観点から検体提出時に生食に浸したガーゼの不使用を提案し、提出リンパ節半割後に周囲の脂肪組織を丁寧に除去することで標本作成上の障害因子を低減させ、迅速凍結切片の質の向上を図っています。

病理解剖は、医療の現場における最も精密な病態解析法です。臨床研修医師教育における CPC 担当経験や内科専門医取得の際に求められる病理解剖症例の主治医経験などを保証するだけでなく、病理診断業務そのものの精度管理、臨床医療における治療の適正性の実証、予期せぬ死亡事例における死因究明、当院医療スタッフのみならず、CPC の WEB 参加を可能にすることで地域医療従事者の皆様方への学習機会提供など、医学・医療の原点としての大きな意義を内包しています。昨年度 2 例、今年度 3 例の病理解剖を実施し、それぞれ 2 回ずつ CPC を開催しましたが、主治医、担当科、病理検査室、臨床検査科、地域連携室、教育研修委員会をはじめとして院内各位のご支援、ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

免疫染色は病理診断業務の精度管理、精度向上にも重要で、昨年度 1137 件の症例に対して 5737 枚の免疫染色を実施しました。全組織診件数に対する免疫染色実施率は 38.7%にも及び、これを実現して下さった病理検査室臨床検査技師各位のみならず、院内各位の皆様方に深甚の謝意を申し上げます。

令和 4 年 9 月以降、細胞診業務を院内業務に戻したことで、結果報告所要日数は半減し、委託に纏わる煩雑な業務が無くなり、細胞検査士と細胞検査士試験受験準備の臨床検査技師スタッフが細胞診業務に集中出来る環境を実現し、令和 5 年度は 100 回を超える細胞診カンファレンスを実施出来ました。

病理組織診、細胞診報告では可能な限り結果報告所要時間の短縮を心掛けておりますが、難解症例の場合、セカンドオピニオン取得には時間を要します。ご理解の程どうぞよろしくお願い致します。

体腔液セルブロック作成と免疫染色を活用した病理業務の展開は検体取り扱いの専門家である臨床検査技師、細胞検査士の皆様のおかげで実現出来ました。昨年度 26 件、今年度は 34 件実施しました。この手法は病理組織検体採取や画像検査が困難な場合や、ステージ IV 期の原発不明癌症例の原発巣確定に有用です。

医療の質、安全性向上にはまず健康被害のない労働環境の実現、働き方改革が叫ばれる昨今、業務量、業務負荷に相応の適正な人員配置、労働時間、有給休暇取得の管理が望まれます。

1.6 今後の課題

1) 働き方改革の観点から

昨今、私たちは働き方改革の最中にあり、適正な病理業務マネジメントによりさらに病理診断の質向上を実現しながら、業務負担軽減、時間外労働軽減を図ります。

2) 新築移転時に備えるべき病理診断科体制

当院では令和 8 年 10 月には病床を 345 床にまで増やし、従来の小児・周産期医療、高度救急医療、心臓血管外科による成人先天性心疾患手術、脳神経外科における脳卒中診療の充実はもとより、癌診療を中心とする高齢者医療では、消化器癌、乳癌診療に加えて、前立腺癌、肺癌診療など的高齢者医療についても整備が進められます。これを支えるためには常勤病理医 2 名体制の実現が喫緊の課題となっています。

また、新病院では病理検査室に分子病理診断室を新たに設け、分子標的薬決定のための遺伝子検査等を充実させていく予定です。

マンパワー及びハード面の充実のために、今後は千葉大学腫瘍病理学講座、千葉大学附属病院病理診断科と密に連携し、人員増員、環境整備を推進して参ります。

3) 新築移転時に予定する病理診断業務環境

2 年後には 5 階医局横に病理診断室を設けます。病理医が常駐し、病理診断に関するカンファレンス機能を充実させ、病態解明への時間短縮、追加治療の必要性、可能性を主治医と共有し、主治医による「疾患の病理診断結果に基づくフォローアップの方針」決定支援力を高めて参ります。今後、癌診療の比重は益々増大することが想定されますが、癌の集学的治療における効率性、安全性、確実性は、主治医による病理医や病事情報への物理的、心理的なアクセスのしやすさに影響されますので、これによるヒューマンエラーを最小限にとどめ、安全で効率的な医療提供実現を目指しています。

4) 病理診断科の目指すゴール

上記の取り組みの結果として病理医は研修医教育、専門医教育に貢献し、臨床医による学会・論文発表、研究費申請を支援し、当院が果たすべき地域医療における質・安全性向上、高度医療におけるリスク低減、人材育成に貢献することが当科のゴールと考えています。

1.7 学会参加

1) 第 112 回日本病理学会総会：令和 5 年 4 月 13 日～15 日（WEB 参加）

2) 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会：令和 5 年 6 月 9 日～11 日 (WEB 参加)

3) 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会：令和 5 年 11 月 4 日～5 日 (WEB 参加)

18 学会・論文発表

1) 左右差のある錐体路障害を呈した筋萎縮性側索硬化症の 1 剖検例：松尾 宏俊、細川 洋平、長谷川 浩史、金 一暁、田中 章浩、高橋 央、丹藤 創、漆谷 真、梶 龍兒、伊東 恭子。臨床神経学 63 巻 6 号 Page410(2023.06) (会議録)

2) 心房中隔内膜肉腫の 1 例：沖 摩耶、松尾 寿保、高田 政彦、古屋 亮、中上 拓男、細川 洋平、嶋田 恵理。Japanese Journal of Radiology 42 巻 Suppl. Page30(2024.02) (会議録)

3) Duodenal tuberculosis with gastric outlet obstruction: A case report of successful diagnosis and treatment, with review of literature. Sato N, Shiohara M, Wakatsuki K, Suda K, Miyazawa K, Aida T, Watanabe Y, Tawada K, Matsubara Y, Hosokawa Y, Yoshioka S. Surg Case Rep. 2024;10(1):42.

文責者：病理診断科統括部長
細川洋平